

平成19年度

いぶり火山マイスター検討委員会(第2回)議事録

議事1 開会

(委員長挨拶～岡田弘 北海道大学名誉教授)

この地域が火山と共生していくにあたって、火山マイスター制度は重要な役割を果たすと考えられる。出来つつある制度の形を専門部会の素案として提案するので、検討をよろしく願いたい。

議事2 火山マイスター制度(素案)について

資料1により、火山マイスター制度に関する専門部会の素案を説明し、意見交換

(火山マイスターのネーミングについて)

- ・こうした制度はネーミングが大切。「有珠火山マイスター」の方がわかりやすいのでは。(伊達市菊地)
- ・有珠山は洞爺カルデラの一部としての位置づけである。こうしたことを認識してもらうため、火山マイスターの名称は「洞爺湖有珠火山マイスター」がふさわしい。これは、検討中のジオパークの名称や範囲も意識したものである。(岡田)

(火山サポーターの位置づけについて)

- ・素案5頁に、「さらに研鑽実績を積み上げ～火山マイスターの称号授与～」とあるが、火山サポーターが研鑽し実績を積み上げる場はあるのか?(環境省浅田)
- ・そのための特別なプログラムはないが、養成講座等の「学ぶ場」を設ける(事務局)
- ・火山サポーターの要件である受講経験には、今後の受講経験だけでなく、過去の受講経験も考慮した仕組みとするべき。(宇井)

(認定審査(試験)方法について)

- ・主観的な試験で受験者の不満が出ないか心配。試験の透明性を高めるため、森林インストラクター制度と同じように、点数制の試験も考えられるのではないか。(森林管理署中堀)
- ・火山マイスターの場合、毎年多数の応募者があるわけではない。認定試験の点数制はなじまないと考える。(宇井)

（養成講座について）

- ・ 国立公園の規制に関する基礎的知識も養成講座（主催講座）に盛り込むべき。（岡田）

（制度の運営や体制について）

- ・ エコミュージアム推進協議会での将来的な運営についてであるが、火山マイスター制度より広い範囲を活動の対象としているエコミュージアム構想との整合性も考えなければならない（有珠火山の会佐藤）
- ・ ガイドの申込先などの受け皿がないと火山マイスターの活動は容易ではないのではないかと（有珠山ガイドの会土井、洞爺ガイドセンター小川）
- ・ 既に資格制度を管理する立場からのアドバイスもいただきたい。（壮瞥町田鍋）
- ・ 国有林の保全活用、地権者と制度管理者とのすり合わせも必要。（森林管理署中堀）

（制度の発展について）

- ・ 特定の分野のプロフェッショナルからサポート受ける仕組みとしてシニアマイスター（仮称）を位置づける視点もある（岡田）
- ・ 火山マイスター制度は、エコミュージアム構想、ジオパーク活動と密接に関係している。こうした動きに関わっていけるようにしたい。（だて観光協会廣吉）
- ・ エコミュージアム構想の推進に当たって、エコガイドの検討しているところ。3月頃にはアウトラインできる見込み。このエコガイドと火山マイスター制度は連携が可能。（壮瞥町田鍋）
- ・ 今検討している火山マイスター制度は、この地域を対象としているが、将来的には、この制度をほかの地域にも広げ、全道的な人づくり制度となることを期待する。（壮瞥町田鍋）

議事3 今後の進め方について

資料2により、今後の進め方を説明し、意見交換

- ・ 5/10（土）（地質の日）は、「日本ジオパーク委員会」の設立予定
- ・ 5月31日（土）は安全学会、5/24（土）は合同学会などが予定されている

まとめ

- ・ 意見を踏まえて修正し、次回検討委員会で正式に決定したい。
- ・ 次回検討委員会は3月